

厚木愛甲環境施設組合事業懇話会先進施設視察

厚木愛甲環境施設組合事業懇話会は、平成 24 年度第 2 回の活動として、相模原市南清掃工場の視察を行いました。

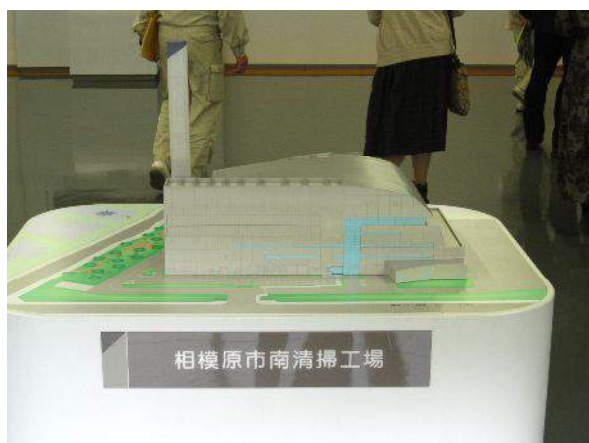
同工場は、厚木愛甲環境施設組合が整備を計画している中間処理施設の処理方式の一つである、流動床式ガス化溶融方式を採用し、平成 22 年 3 月からごみ処理、環境対策、再資源化、余熱利用等について先進的に取り組んでいます。

当日は、概要説明及び施設内の見学後、環境対策や施設の運営に係る活発な質疑が行われました。

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 5 日 (月)
- 2 参加者 厚木愛甲環境施設組合事業懇話会委員 12 人

相模原市南清掃工場施設概要

施設名称	相模原市南清掃工場
所在地	相模原市南区麻溝台 1524 番 1
竣工	平成 22 年 3 月
処理量	525 t /24h(175t/24h×3 炉)
炉形式	流動床式ガス化溶融炉
建物構造	地下 1 階、地上 6 階
	建築面積 9,700 m ²
	延べ面積 24,000 m ²
人口	相模原市 719,600 人
面積	相模原市 328.83k m ²



【主な質疑応答】

Q. 管理運営に係る年間経費について教えてください。

A. この施設の維持管理で約9億円要しております。なお、平成23年度、発電による電気収入で約2億円、鉄やアルミの資源化で約3千万円の収入があります。

Q. 相模原市では、当工場と北清掃工場でごみの処分（中間処理）を進めていると伺いましたが、北清掃工場について御説明をお願いします。

A. 北清掃工場は、相模原市下九沢に位置しております。

平成3年に建設を終了し、約20年を経過しようとしています。

150トンのストーカ炉が3炉あり、1日最大450トンのごみを処理することができます。

津久井の清掃工場は、このたび稼動を止めましたが、ごみピットがありますので、このごみピットを中継所とし、大型のトラックに積み、南清掃工場へ持ってきます。

旧城山町は直接、北清掃工場へ、旧津久井町、相模湖町、藤野町は津久井の工場を中継をして南清掃工場へごみを搬入しております。

Q. 以前と同じ場所に処分場を建て替えることについて、周辺の住民や工場の方からの反対意見などはありませんでしたか。

A. 処分場建設に当たり、地元自治会との協定などはありません。ただし、建設前に、周辺4自治会に対し、複数にわたる説明会を実施しております。また、その他一般市民に向け説明会を実施しております。

Q. この最新設備により、最終処分場に搬出するものを少なくするという事は、とても良いことだと考えますが、県の平均から考えますと、資源化や減量化についてどれくらいのレベルにあるのですか。

A. 一つの例といたしまして、1日1人当たりで示すごみ排出原単位で話しますと、当市の場合、平成22年度は913グラムであり、厚木市、愛川町、清川村の合計942グラムに対し、若干少ない数値となっております。

政令市で比べますと、上位でもなく下位でもない位置にあり、まだまだごみ減量の余地があります。

Q. 溶融炉のメリットとデメリットを聞かせてください

A. 焼却灰を排出していくと最終処分場の延命化はできません。もちろん、スラグに変えていかに利用していくかということが重要なわけがありますが、最大の目的は、最終処

分場の延命化にあるため、溶融をしていくことであります。

デメリットとしては、普通の焼却と比べると機器点数が多くなるため、それに要する維持管理費が多くなるということがあります。